

① 都城市立有水小学校学校評価報告書 No. 1 アンケート回答数 教職員11名、保護者55家庭、児童90名

No.	分類	評価項目	対象	評価の結果 %				学校の自己評価	学校が考えた対策	考えられる具体的な手立て	学校関係者評価
				A	B	C	D				
1		子ども達は、意欲をもって学習に取り組んでいる。	教職員	36.4	63.6	0.0	0.0	若干ではあるが教職員の評価が昨年度比で伸びている。しかし、日頃の学習の様子から、困難な問題へチャレンジしようとする意欲の面では昨年度同様、少々物足りなさを感じるところである。	中長期的・短期的な目標を設定させ、教師と保護者がその目標を踏まえ、一人一人が意欲をもって取り組めるよう称賛する場面を多く取り入れる。また、教材を工夫し、適度に負荷のある課題を意図的に設定する。	①学習に関する年間・学期・週目標の設定◆教務、学担 ②日々の宿題、長期休業中の宿題の工夫と個別化◆学担	称賛するためには中・長期的でみんなで取り組める目標の設定を大切にしてほしい。その上で、それぞれの個に応じた方法で、全員が称賛されるようにしてほしい。
			保護者	30.9	61.8	7.3	0.0				
			児童	41.1	44.4	13.3	1.1				
2	知	子ども達に基礎学力(読み・書き・計算)が定着している。	教職員	9.1	81.8	9.1	0.0	これまで同様、学年差、個人差、両極化が顕著であるが、学力検査の結果をみると全国平均比で国語+3.1、算数+1.4と、校内研究をはじめ基礎学力向上対策が成果を上げていると言える。	称賛する機会を多く設定するとともに、一人一人に応じたきめ細やかな手立てを工夫する。特に、下位グループの児童については、個別指導の時間を確保し、全職員で対応する指導体制を確立する。	①日々の宿題、長期休業中の宿題の工夫と個別化◆学担 ②朝自習・個別指導への全職員による対応◆教務	学校の取組の成果が現れている。人数的にもちょうどよい規模なので、個別指導も大いに活用しながらお互いを高め合い、競い合う雰囲気を作ればよい。保護者の協力でなお一層の効果が期待できる。
			保護者	21.8	70.9	7.3	0.0				
			児童	24.4	43.3	20.0	12.2				
3	育	子ども達は、自分から家庭学習に取り組んでいる。	教職員	44.4	44.4	11.1	0.0	保護者の評価が昨年度比で伸びている。家庭での取組が定着しつつあるものと予想される。しかし、依然として個人差があり、家庭での学習をまったく見てもらえない児童もいる。	家庭学習の計画を児童自身に立てさせ、評価するという活動を繰り返し体験させる。また、家庭学習への取組を徹底させるとともに、生活ノートを利用し、毎日の家庭学習の取組を振り返ることができるようにする。	①一日の生活スケジュール及び学習スケジュールの立案◆生保 ②自学の指導の徹底◆教務 ③生活ノートの改善・利用◆教務	生活ノートの改善・利用はぜひお願いしたい。家庭学習の習慣は低学年の段階で身に付けておくべきものなので、低学年の保護者に対して関わりの大切さを伝えてほしい。
			保護者	25.5	58.2	16.4	0.0				
			児童	37.8	27.8	30.0	4.4				
4		子ども達は、進んで本を読んでいる。	教職員	27.3	45.5	27.3	0.0	昨年度と比べて、保護者の評価が若干ではあるが伸びた。家庭でも子ども達が本に親しむようになってきていることが伺える。ただ、まったく読まない子どももいることから、そういった家庭への働きかけも必要である。	習慣化を目指して、家庭学習に読書を取り入れたり、クラスみんなDEリレー家読を奨励したりするなどの具体的方策を設定し、継続して取り組んでいくことが重要である。	①親子家読の日の設定◆教務 ①クラスみんなDEリレー家読の実施◆教務	有水地区公民館には小さいながらも図書室や学習スペースなどがある。利用を考えてみてはどうか。また、保護者が家で読書する姿を見せるなど、家庭での読書活動を推進する取組など積極的に進めてほしい。
			保護者	27.3	41.8	27.3	3.6				
			児童	32.2	42.2	14.4	11.1				
5	徳	子ども達は、進んであいさつをしている。	教職員	27.3	54.6	18.2	0.0	教職員・保護者・児童のいずれも前年比で評価を上げた。少しずつではあるが、あいさつがよくなってきつつあると予想される。地域の方々からもあいさつがよくなったなどの評価がいただけるまで高めたい。	家庭や地域においてあいさつが習慣化するよう、一体となった取組を展開する。特に、家庭や地域でのあいさつ運動を奨励し、大人が率先してあいさつすることに努め、定期的にアンケート等で変容を見届け、指導に反映させる。	①大人のあいさつ率先垂範◆PTA ①家族・地域あいさつ運動の実施◆生保	子どもたちは遠くからでも気持ちのよいあいさつをしてくれる。家庭での元気なあいさつ運動など、家庭でのあいさつの習慣化を目指した目に見える具体的な方策をとってほしい。
			保護者	41.8	49.1	7.3	1.8				
			児童	51.1	44.4	3.3	1.1				
6	育	子ども達は、正しい言葉遣いができる。	教職員	9.1	72.7	18.2	0.0	若干ではあるが、教職員・保護者の評価が上がった。学校においては、まだまだ改善の余地はあるが、一定の効果が認められることから、継続して指導をしたい。	PTAの重点取組事項に挙げて取り組んできたことで、少しずつ成果が表れてきたと評価したい。家庭での言葉遣いを見直してもらいながら、定期的にアンケート等で変容を見届け、指導に反映させる。	①大人の言葉遣い率先垂範◆PTA ①言葉遣いに関するアンケートの実施◆生保	全体的によくなってきたと感じる。教師・保護者・児童の三者が一緒に言葉遣いの大切さを学ぶ機会があるとよい。保護者には、いつも子どもに見られているという意識をもってもらいたい。
			保護者	10.9	69.1	18.2	1.8				
			児童	28.9	41.1	24.4	5.6				

都城市立有水小学校学校評価報告書 No. 2

No.	分類	評価項目	対象	評価の結果 %				学校の自己評価	学校が考えた対策	考えられる具体的な手立て	学校関係者評価
				A	B	C	D				
7	徳育	子ども達は、落ち着いた学校生活を送っている。	教職員	18.2	72.7	9.1	0.0	昨年度比で教職員・保護者・児童のすべてで評価が上がってきた。校内での児童の様子は落ち着いている状況である。大きなけがなどもなく、子ども同士の大きなトラブルもない。	これまで同様、 教職員が子どもに寄り添い、確かな児童理解を実現するとともに、人との関わり方を実践をと おして 学ばせる機会を積極的に設定し 、より確かで実践的な生徒指導を展開する。	①子どもに寄り添う活動(学校行事、遊び、給食)の積極的推進◆教務◆学担 ②ソーシャルスキルトレーニングの実施◆教務◆学担	全体的に良好である。寄り添うということが友だち感覚にならないように注意しながら、具体的な手立てをとおして心を開き、一層落ち着いた学校生活が送れるようにしてほしい。
			保護者	47.3	49.1	3.6	0.0				
			児童	32.2	46.7	14.4	6.7				
8		子ども達は、心身ともにたくましく育っている。	教職員	45.5	54.6	0.0	0.0	昨年度比で児童の評価が落ちている。自己肯定感・自己有用感が不足しているのではと感じる場面が少なからずある。子どもたちが自信をもって様々なことにチャレンジしていけるようなサポート体制が必要である。	学校や家庭において、ある程度長期間で継続的に取り組める課題を意図的に設定し 、その過程において定期的な評価と称賛を必ず行う。 懇談等でも、お互いの取組状況や成果を共有 し合う。	①一人黙々ボランティア活動の積極的推進◆生保◆学担 ①お手伝い運動の実施◆生保 ②学級懇談の充実◆教務◆学担	自主的なボランティア精神の涵養が必要である。お手伝い運動など家族の一員としてどんなに小さなことでも手伝えるように保護者への働きかけをぜひお願いしたい。
			保護者	47.3	49.1	1.8	1.8				
			児童	34.4	35.6	25.6	4.4				
9	体育	子ども達は、進んで体力づくりに取り組んでいる。	教職員	27.3	72.7	0.0	0.0	昨年度同様、昼休みの外遊びが増えたり、スポーツ少年団への入部が増えたりするなどよい傾向にはあるものの、両極化している。特に、家庭や地域での体力づくりに課題が残る。	学校では 体力向上プランに則った取組を継続 する。 家庭においてはそれぞれの実情に応じた方法を確立し 、継続的かつ意欲的に取り組めるように定期的な評価と称賛を繰り返す行う。	①体育の時間における運動量の確保と有水サーキットの実施◆生保 ②親子元気アッププログラムの実施(文科省子どもの体力向上HP参照)◆生保	スポーツテストの結果から、校内での取組の成果はみられる。家庭での取組に期待したい。スポーツ少年団への参加も増えているということで、よい方向に向かっていると感じる。
			保護者	40.0	54.6	5.5	0.0				
			児童	41.1	34.4	16.7	7.8				
10		子ども達は、食事をかたよりなくとっている。	教職員	36.4	45.5	18.2	0.0	ときどき朝食を摂らないという児童がまだおり、児童及び保護者の食に対する意識の高揚が必要である。学校給食についても、個人差はあるが、偏食と小食による残菜が多い学年もある。	弁当の日を推進 するとともに、 食に関する授業を参観日に実施したり、給食試食会をしたり するなどの啓発活動を行う。給食においては、学年で指導の差が出ないように、 共通理解の下で一貫した指導 が成されるようにする。	①弁当の日の積極的な推進◆生保 ①食に関する参観授業と給食試食会の実施◆教務◆生保 ②給食指導の進め方(特に偏食・小食指導)の共通理解・実践◆生保	学校が考えた対策を具体的に進めてほしい。保護者には、親の生活習慣で朝食抜きを子どもに強いることなく、生活のリズムを再確認してもらい、食に関する意識を高めてほしい。
			保護者	23.6	72.7	3.6	0.0				
			児童	40.0	34.4	14.4	11.1				
11	その他	学校は、子どもや保護者の相談をよく聞いてくれる。	教職員	60.0	40.0	0.0	0.0	保護者の評価が若干ではあるが上がった。学校を信頼し応援していただいと受け止めたい。同時に、期待も大きいと受け止め、さらに真摯な姿勢で教育活動に当たりたい。	PTA活動をはじめ、 保護者・地域・教職員の相互理解を図る機会を拡充及び充実 させる。また、 積極的な教育相談活動 をとおして児童理解に努め、さらに信頼される教職員を目指す。	①PTA関連行事への積極的参加◆全教職員 ②教育相談の充実◆教務◆学担	地域とのつながりが希薄になっている気がする。相互に信頼し理解し合う活動をとおして、子どもたちの健全育成につなげてほしい。
			保護者	40.0	56.4	1.8	1.8				
			児童	60.5	30.2	9.3	0.0				
12	その他	学校が、児童や教師の笑顔であふれている。	教職員	36.4	63.6	0.0	0.0	昨年度並みの結果であった。幼稚園から中学校卒業までクラス編成がない本校のような学校では、人間関係の固定化をどう打破し、支持的な雰囲気をつくるかが鍵である。	人権教育の推進に努め、子ども同志のレッテル貼りにつながるような欠点指摘型の活動や相互評価をやめ、 お互いのよさに目を向けられるような教育活動及び相互評価を積極的に推進 する。	①全校集会・学年部集会の見直し◆教務 ①朝の会・帰りの会の見直し◆学担 ①参加体験型学習(ワークショップ)の実施◆人権担当	時折、学校を訪ねると、その明るい雰囲気が見て取れる。職員と子どもたちの健全な関係が表れている。また、保護者と職員との距離も近く、笑顔で接している様子が伺える。
			保護者	45.5	50.9	1.8	1.8				
			児童	50.0	37.8	11.1	1.1				